

園長先生の子育てひろば

令和6年11月

園長 堀田 あけみ

兼業園長は、火水は大学、月木金は幼稚園に出勤します。幼稚園の日は、登園時と降園時に正門に立って、お迎えお見送りをしています。私が保護者だった20年前に較べると、お父さんの割合が増えていると感じます。おじいちゃん、おばあちゃんも活躍されてますね。

このとき、お子さんとは、声だけで挨拶したり、タッチしたり、バイバイだけだったり、様々な形でコミュニケーションします。心理学の用語で「ミラーリング」というのがあって、これは相手の動作を真似ることで親近感を増すという対話の技術の一つです。でも、想像していただくとわかんと思いますが、上手くやらないと却って「ばかにしてんのか？」という結果になりかねません。挨拶のバリエーションはこの応用で、そこまできっちり鏡にしません、基本的にはお子さんの反応に合わせて、こちらの挨拶を変えます。保護者さんに対しても同じです。

これ、平等じゃないのでは？ と思われるかもしれませんが。教育とは平等であるべきでは？人が平等であるというのは、尊厳を等しく持っているということであって、存在が平等なのとは違います。シンプルに、背の高さが違えば見える景色は違うのです。と、夫より30センチ背が低い私は思います。真の平等が存在しないのならば、均等であるべく、努力をするのが教育だという持論に到達しました。

大学の卒業式では、ゼミ生みんなにプレゼントを渡します。これが平等。その後、論文集の編集を、とっても頑張ってくれた学生とは、美味しいご飯を一緒にいただきます。こちらは均等。平等ばかり主張しては、損する人が出てくるし、それは、損をさせてはいけない人だったりするからです。これから社会に出ていく人に、頑張っても損だって思っほしくありません。

すべてのお子さんが、大きな声でタッチしての「おはようございます」や「さようなら」を求めているわけではありません。声を出すのが苦手なら、今は無言で手を振るだけでも大丈夫。保護者さんの後ろに隠れたり、逃げたりするお子さんもいます。様子を見て、覗き込むか、見送るかを決めます。追いかけてほしくて隠れる子もいますから。もしかしたら、もれなく追いかけて挨拶してほしい、と保護者さんは思われるかもしれません。そうすることで、うちの子にも挨拶が身に付くのでは。そもそも幼稚園ってそういうところなのでは。でも、そっとしておいて欲しい子は、そっとしておきたいと思います。毎日会っていれば、変化するので、そのときに声をかけます。口だけ動かしての「おはよう」でも大丈夫です。もちろん、手を振ってくれるだけでも。保護者さんに対しても同様です。不必要に誰かと関わりたくなかったり、疲れていて声を出すのがだるかったりするかもしれません。スマホを見ている方にもお声がけは控えます。でも、歩きスマホはやめましょう。

挨拶は人間関係の基本。きちんとした挨拶が好感を呼び起こすのは間違いありません。でも、強制されると却って委縮してしまうもの。この半年だけでも、声を出して挨拶できるようになった子は何人もいます。何かができるタイミングは、それぞれ。保護者さんと連携しながら、見守りたいものです。